

第74回(2021年)

カンヌ国際映画祭 脚本賞受賞!!

赤平でも撮影された

映画が8月20日(金)から

公開されます

この運命から、目を逸らさない――。

第74回カンヌ国際映画祭
脚本賞受賞ほか全4冠

ドライブ・マイ・カー

西島秀俊
三浦透子 霧島れいか
バク・ユリム ジン・デヨン ソニア・ユアン
アン・フイチ ベリー・デヴィン 安部聡子
岡田将生

監督:濱口竜介

原作:村上春樹『ドライブ・マイ・カー』(短編小説集「女のいない男たち」所収/文藝文庫刊)

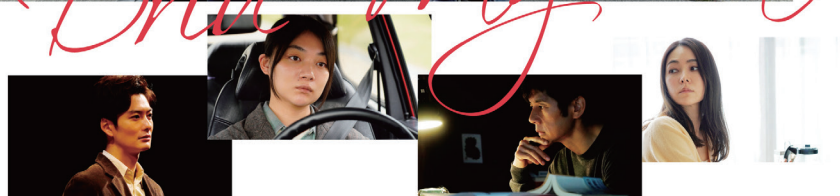
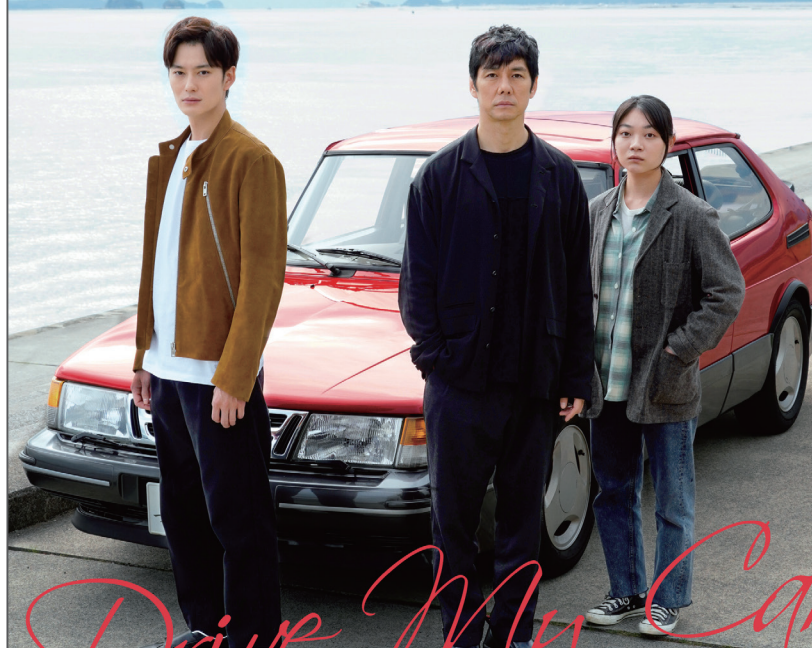
脚本:濱口竜介 大江崇允 音楽:石橋英子

プロデューサー:山本晃久 アソシエイト・プロデューサー:近藤孝典 イコン・プロダクション 撮影:高井大樹 編集:伊豆田康明 美術:後賢亮 装飾:加々木麻衣

スタイリスト:藤原春樹 ヘアメイク:市川麻子 編集:山崎純 録音:高井大樹 監製:濱口竜介 大江崇允 助監督:川井孝人 久保田博紀 職務:コーディネーター:タレント

製作:『ドライブ・マイ・カー』製作委員会(カンヌ・コンスタンティン・ピタゴラス・エン・ド・ネ・コ・レ・ク・ラ・ス・日本出版販売 文藝春秋・レズ・ヌ・ド・レ・コ・レ・ク・ラ・ス・コンスタンティン・ピタゴラス・エン・ド・ネ・コ・レ・ク・ラ・ス・)

©2021『ドライブ・マイ・カー』製作委員会 2021/日本/1551/1799 dmchillers.co.jp



妻との記憶が刻まれた車。聴けなかった秘密。辿りつく場所――。



映画について



世界中に熱狂的ファンを持つ作家・村上春樹さんが、2013年に発表した短編小説『ドライブ・マイ・カー』。舞台俳優の主人公・家福(かふく)を苛み続ける、亡き妻との記憶――。計り知れない喪失と仄かな希望を綴った珠玉の名作です。

主演は、実力俳優・西島秀俊さん。放送中のNHK連続テレビ小説『おかえりモネ』のほか、今後も映画『シン・ウルトラマン』、『劇場版 きのう何食べた?』などの話題作へ立て続けに出演します。これまで数多くの作品で難役を演じてきた西島さんが、愛する妻を失った舞台俳優の家福役に挑みます。ヒロインみさき役には、三浦透子さん。映画『ロマンス・ドール』『おらおらでひとりいぐも』など、印象に残る高い演技力で観客を魅了しました。さらに、『天気の子』では主題歌にボーカリストとして参加するなど、多彩な才能で注目を集めています。本作では、主人公の愛車を運転する寡黙でありながら芯のあるドライブ・みさきを演じます。

さらに、物語を大きく動かすキーパーソンの俳優・高槻役には公開中の映画『さんかく窓の外側は夜』『Arc アーク』のほか主演舞台『物語なき、この世界。』も控える赤平でもおなじみの岡田将生さんが、秘密を抱えたままこの世を去る家福の妻・音役を『運命じゃない人』『ノルウェイの森』の霧島れいかさんが演じます。

ストーリー



舞台俳優であり、演出家の家福悠介。彼は、脚本家の妻・音と満ち足りた日々を送っていた。しかし、妻はある秘密を残したまま突然この世からいなくなってしまう。2年後、演劇祭で演出を任されることになった家福は、愛車のサーブで広島へと向かう。そこで出会ったのは、寡黙な専属ドライバーみさきだった。喪失感を抱えたまま生きる家福は、みさきと過ごすなか、それまで目を背けていたあることに気づかされていく……

映画『ドライブ・マイ・カー』公式サイトから

濱口竜介監督 インタビュー

はまぐち りゅうすけ



昨年12月、濱口監督ご本人にインタビューしました。

映画のみどころを

教えてください。

原作は村上春樹さんの短編小説で、内容をかなり膨らませております。舞台が北海道というのは、本編ではセリフで登場する程度ですが長編映画とさせていただくにあたり、主人公のドライバーの女性が北海道出身という設定にしておりましたので、そこを見せないと終われないという気がしていました。見どころとして一つ言えるのは、タイトルが「ドライブ・マイ・カー」ということで「移動」がテーマになっています。移動しながら何かを話していく主人公が、話しているうちに自分自身が抱えこんでいたものを吐露していくというお話です。「移動のなかで変わりゆく風景」のある種の終着点として北海道の「赤平」を選ばせていただきました。

移動の果てに主人公の深いところにあったものがようやくここで出てくるというような映画となっております。

赤平市での撮影の感想を聞かせてください。

ロケハンを含めて3回ほど赤平には来ていましたが、最初に来たのが2020年の2月でその時には雪はもうあまりありませんでした。そのあとコロナによる中断をはさんで、9月10月にロケハンに来たときはまた違う風景でした。また、今回雪の北海道を見てとても映画的な場所だなとカメラを据えたくなる「ずーっと伸びていく道の風景」であるとか、「降り注いでいる雪」であるとか、やっぱり北海道という場所イメージしていたようなものがここにはハッキリとあって、映画のラストシーンに近いクライマックスの場面を撮ることができて非常にありがたかったです。

赤平のまちなみのイメージを教えてください。

広々としている場所だなと感じました。北海道まで来るのは予算的にもなかなか大変で、「北海道に似ているところはないか？」というところで東北地方などでも撮影を検討しましたが、実際に北海道にいくと全然違いました。家屋と家屋の間隔が離れていたり、広い平野に一軒一軒ボンボン、ボンとあったりと、これとても映画的で本州に住んでいて感じる「これが日本だ」という感覚が壊され、雄大さを感じられる場所でした。

あとは、何日かしか滞在していませんが、がんがん鍋やトンカツラーメンなどが非常に美味しかったです(笑)

濱口監督について

「偶然と想像」という作品で世界三大映画祭の一つ、第71回ベルリン国際映画祭のコンペティション部門で、最高の金熊賞に次ぐ審査員大賞(銀熊賞)を受賞。厳選された15作品からの受賞で、日本を代表する是枝裕和監督、黒沢清監督らに続く才能として海外からも注目されています。

2015年のロカルノ国際映画祭では「ハッピーアワー」が最優秀女優賞、ベネチア国際映画祭で銀獅子賞(監督賞)を獲得した黒沢清監督の「スパイの妻」では野原位(ただし)さんと脚本を手がけています。

先日行なわれた第74回カンヌ国際映画祭では、脚本賞を受賞し、三大映画祭での連続受賞を果たしました。



赤平のみなさんに一言

みなさんの住んでいるところで本当に素晴らしい映画を撮らせていただきました。「自分たちの住んでいる赤平がこんなにもすてきな場所だったのか」と思っていただけのような場面になったと思います。「ここであんな感情的なやりとりが行なわれていたんだな」と思っていただけのラストシーンとなっておりますので、ぜひ劇場でご覧ください。